

### 安全文化に對話を重視

#### 関西電力 コミュニケーション強化

関西電力の原子力保全改革検証委員会(委員長 佐藤信昭氏(弁護士))が十一日に開かれ、同社が取り組む安全文化醸成活動について討議を行った。

同委員会は、〇四年の美浜3号機事故を受け、再発防止対策の確実な実施に向け、社外有識者による客観的・総合的な評価・監視を目的に設置されたもの。十一日の会合では、これら再発防止対策の実施状況とともに、安全文化評価の重点施策として、福島事故を踏ま

り、一体感の醸成に努めている。意見交換では、今後の工事・再稼働・定期検査の見直し、地震・津波対策に関する地域へのPRに関するものが出ている。

また、同社では、若手社員育成策の充実・強化も、重点施策として取り組んでおり、技術力推移の経年観察評価、コーチング研修、実習課題発表会など、継続的に実施している状況が検証委員会に報告された。

### 動く臓器に正確な照射

#### 北大・島津製作所 動体追跡技術を利用

北海道大学と島津製作所は、次世代高精度放射線治療のための新動体追跡技術「動体追跡技術」の商品化に向けた共同開発を行い、試作機が完成したことを発表し、

北海道大学 学と島津製作所は、次世代高精度放射線治療のための新動体追跡技術「動体追跡技術」の商品化に向けた共同開発を行い、試作機が完成したことを発表し、

### 「おもてなし」の治療環境

#### 放医研など グッドデザイン賞金賞



優れたデザイン製品を選定し、評価・推奨する「グッドデザイン賞」(審査委員長 深澤直人氏)が、放医研の「おもてなし」治療環境を賞賛した。本紙関連では、放射線医学総合研究所の重症子線治療システムおよび先進的な壁面緑化を施した新治療棟が金賞(経済産業大臣賞)に輝いた。放医研、東芝、日本設計の共同受賞。



線医学総合研究所の重症子線治療システムおよび先進的な壁面緑化を施した新治療棟が金賞(経済産業大臣賞)に輝いた。放医研、東芝、日本設計の共同受賞。

放医研の重症子線治療システム(写真左)は、痛みを伴わない医療技術として、一九九四年の臨床試験開始から、既に五千例を超える治療実績があるが、今回の金賞受賞に際し、「最先端医療に『おもてなし』のある環境をデザインしたこと」は、大きな意義があった。日本の心を活かしたもののづくりを今こそ世界にアピールすべき」との高い評価を受けている。また、今年しゅん工した新治療棟(写真右)では、次世代のシステムである「呼吸同期高速三次元スキャンニング照射」の研究が行われているが、建屋は壁面緑化により、美観や環境面にも配慮がなされている。

### 汚染土の不適切 な扱いで処分

#### 環境省

細野環境相は十七日、同省に送付されてきた汚染土を職員が不適切に扱ったことについて緊急記者会見を開いた。

### ガスを低減

#### 東京電力の福島第一

東京電力の福島第一二号機では、原子炉格納容器内の気体を導き、ガス処理装置により放射性物質を低減する「原子炉格納容器ガス管理システム」の運用を十月末より開始した。



東京電力の福島第一二号機では、原子炉格納容器内の気体を導き、ガス処理装置により放射性物質を低減する「原子炉格納容器ガス管理システム」の運用を十月末より開始した。

### 中長期措置についての意見募集

#### 専門部会取りまとめ

東京電力福島第一原子力発電所における中長期措置検討専門部会は、現時点で取りまとめた検討結果案について、国民の意見を募集している。

### 教員免許状更新講習の開催

#### 放射線利用振興協会

放射線利用振興協会(財団法人放射線利用振興協会)は十二月二十六日と三月二十六日に初等・中等教育のための放射線に比べ、照射体積を四分の一から二分の一に減らし、不必要な部位への照射を大幅に減少できる。

### わかりやすい表 示で放射線測定

#### 岩通計測

岩通計測は放射線量モニター「SV-1000/SV-2000」の販売を開始する計画で、現在、福島県内の工場生産を行っており、出荷開始は十二月下旬となる。

### 福島第一原子力発電所

#### 汚染土の不適切な扱いで処分

福島第一原子力発電所の事故によって汚染された土が八日と十六日、福島市の住民を名乗る人物から環境省に送付された。送られてきた土は、関東地方と同程度の〇・一八マイクログラムの低めの線量が盛り上がった状態で空

## 原産新聞の記事検索

<http://www.jaif.or.jp/>

原産協会が発行する「原子力産業新聞」では、10年間の記事データベースから即座に目的の記事を検索できるサービスを、原産協会会員、原産新聞購読者を対象に行っています。何回利用しても無料です。

また、一般の方にも2002年4月からさかのぼって1955年9月25日の創刊号までは、紙面のPDF版が当協会HP「電子図書館」からご覧いただけます。PDF版のキーワード検索も年度単位でご利用いただけるようになりました。

対象：原産会員、原産新聞購読者  
ご利用にはユーザー名(ID)、パスワードが必要です。  
電子メールで購読者コード、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。折り返し、IDとパスワードを返送します。

お申込み: [information@jaif.or.jp](mailto:information@jaif.or.jp)  
お問合せ: (社)日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103)

【著作権】(社)日本原子力産業協会

## 「原産新聞ヘッドラインニュース」

無料メールマガジン

原子力産業新聞は、最新号の見出しと要約を、毎週月曜日までに電子メールを使って配信する無料メールマガジン「原子力産業新聞ヘッドラインニュース」のサービスを行っています。

メールマガジンの配信をご希望の方は、電子メールまたはFAXで、電子メールアドレス、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。

お申込み先 [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

こちらからも直接お申込みいただけます。

○原産ホームページ (<http://www.jaif.or.jp/>)  
○まぐまぐ (<http://www.mag2.com/>)

(社)日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103、FAX03-6812-7110)